

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

紀北町地域公共交通会議

平成22年 7月 1日設置

平成27年 7月 1日 紀北町地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成27年7月～令和4年3月)

令和 4年 3月30日 紀北町地域公共交通網形成計画期間延長
(計画期間：平成27年7月～令和5年3月)

令和 4年 5月20日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和 5年 3月31日 紀北町地域公共交通網形成計画期間延長
(計画期間：平成27年7月～令和6年3月)

令和 6年 1月16日 令和5年度評価結果送付

紀北町地域公共交通網形成計画（平成27～令和3年度、さらに2年間延長）において、公共交通の現状及び、ヒアリング、アンケート調査等から課題を以下のとおり整理

- 課題 1. 公共交通不便・空白地域への対応
- 課題 2. 利便性の向上
- 課題 3. 利用しやすい新たな運賃体系の検討
- 課題 4. まちづくりとの連携
- 課題 5. 町民・交通事業者・行政等による協働の仕組みづくり

紀北町公共交通ネットワーク図

基本的方針：

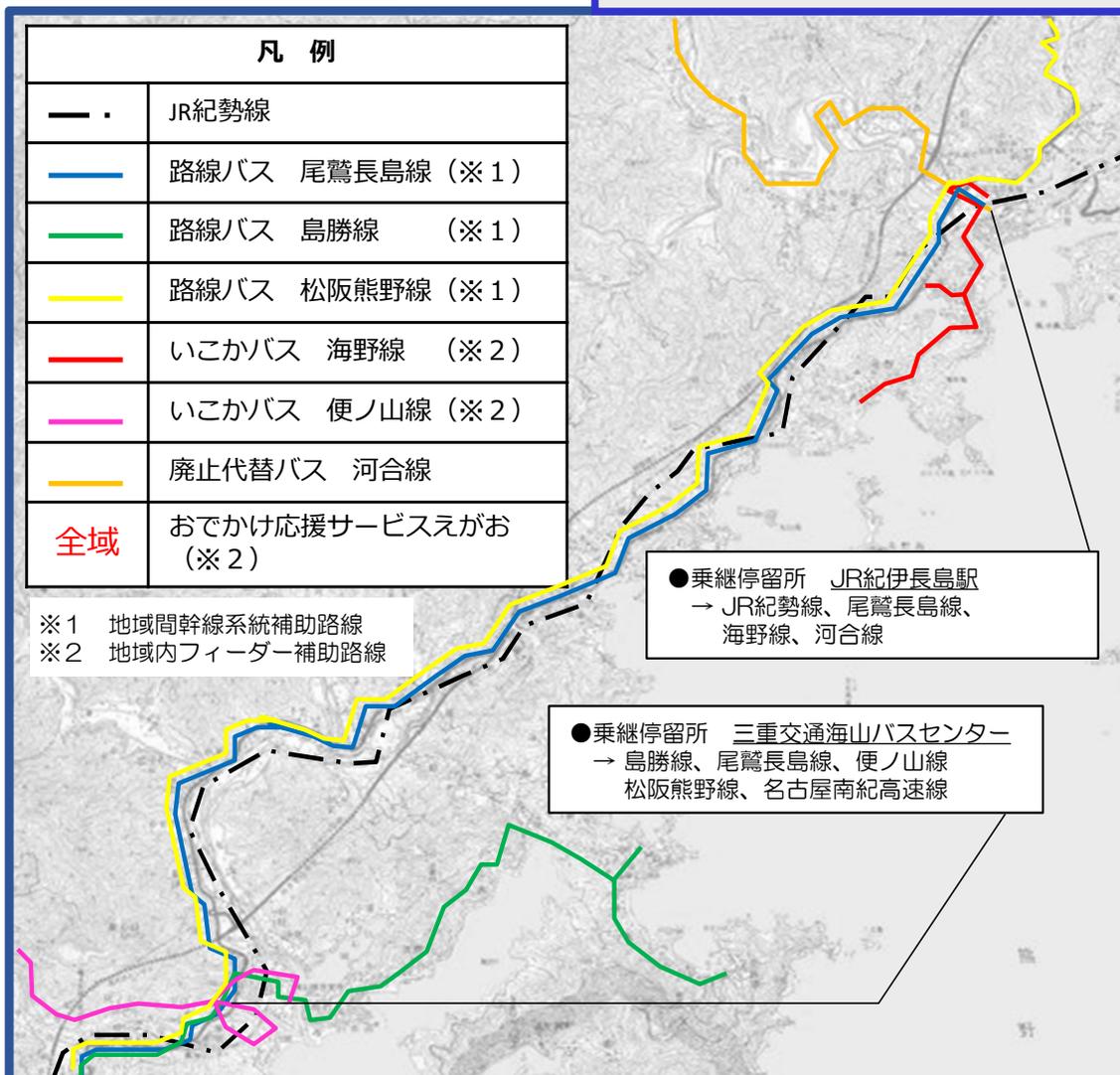
「地域協働型で生活を支える移動手段の確保とにぎわい、元気なまちの実現に寄与する公共交通の充実」

計画区域： 紀北町内全域

目標 1. 地域特性・利用者ニーズに即して、効率的な運行体系の構築

目標 2. 地域の活性化に資する交通サービスの提供と利用促進

目標 3. 地域の主体的な取組みを支援し一丸となる仕組みづくり



主な取り組み内容

- **高校生バス通学定期補助の実施（平成30年4月～） 目標2に向けた施策**
→ バス通学を行う町内の尾鷲高校生徒に対し、バス通学定期券の約4割を補助。
利用実績 H30：3名、R1：9名、R2：11名、R3：5名、R4：11名 → **R5：21名**
住民懇談会での要望をバス事業者に伝え、通学定期利用可能区間を延長し、利便性を向上。
- **おでかけ応援サービス「えがお」本格運行の実施（令和2年8月～） 目標1に向けた施策（交通空白地有償運送〈事業者協力型〉によるタクシー的サービス）**
→ 令和2年2～8月の実証実験の結果を踏まえ、利用者ニーズを反映した改善点を加えて本格運行を開始。（運行時間の改善：予約制での早朝運行開始）
本格運行開始により、公共交通空白地域を解消した。
令和3年6月より2台運行から3台運行に増車
令和3年8月より（受付時間の拡大、運行時間の改善：予約制での夜間運行開始）
- **既存交通再編・利用促進についての検討の実施 目標1に向けた施策**
地域間幹線系統バス路線 島勝線、尾鷲長島線について
→ 利用者が大幅に減少し、国の補助要件を満たせなくなる見込みであるため、**利便増進実施計画の策定に向け**、国や三重県、大学の有識者、関係市町、バス運行事業者と連携し、路線改編や運行効率化等の**検討を実施**。
- **住民懇談会の開催、現地調査の実施（令和4年3月、8月、11月） 目標1,3に向けた施策**
→ 住民の意見を集約するため、公共交通利用者や地区代表者を招き住民懇談会を3回開催。
同時に公共交通の現地調査も実施。**次期地域公共交通計画に反映**。

公共交通空白地域の解消に向けて

- ▶ 紀北町地域公共交通網形成計画に挙げた目標「空白地区ゼロ」は**おでかけ応援サービス「えがお」の運行（令和2年8月）により解消。今後も空白地区ゼロを継続する。**

項目	平成26年度数値	目標値（令和5年度）	実績値
公共交通不便・空白地域	16/107地区	0/107地区	0/107地区

◎ おでかけ応援サービス「えがお」

紀北町に必要な新たな交通の確立に向け、交通空白地有償運送による個別輸送について6ヶ月間の実証実験を経て本格運行を開始（令和2年8月～）。

- ・ 運送区域：町内全域 ・ 車両台数 3台 ・ 運送形態：ドアツードアのデマンド運送
- ・ 旅客の範囲：1人で公共交通機関を利用できる方
- ・ 受付時間：8：20～17：00（1週間先まで予約可）
- ・ 運送時間：7：00～20：00（7：00～8：30、17：30～20：00までの利用は前日までに要予約）
- ・ 運賃：1運送につき初乗り10分600円、以後1分ごとに100円追加

※65歳以上の方は初乗り回数券（6回3,000円）を利用可

- ・ その他：運行管理・車両整備管理をバス事業者に委託し、**事業者協力型自家用有償旅客運送**として運行。町内福祉タクシー事業者から運転手の派遣も受けている。

■ 住民懇談会の開催

第1回懇談会 令和4年3月

以下の方から、地域公共交通全般について聞き取りを行った。

- ①公共交通を必要とする方（高齢者、高校生など）
- ②地区を代表する方（自治会長、民生委員など）

第2回懇談会 令和4年8月、 第3回懇談会 令和4年11月

以下の内容について、第2回・第3回とも同じテーマで聞き取りを行った。

- ① **いこかバス海野線**について（利用者、地域住民から聞き取り）
利用目的、乗降バス停位置、運行時間、利便性等を確認した。
- ② **自主運行バス河合線**について（沿線住民、バス利用者勤務先事業所職員等）
利用者は少ないが、通勤等で毎日利用している方がいること等を確認した。
- ③ **尾鷲高校へのバス通学定期補助制度利用者**（補助制度利用者及びその保護者、尾鷲高校教諭）
高校の始業・終業時間、部活動の時間、現運行ダイヤの利便性、終業時間後の行動、定期券の購入方法、バス停の状況などについて確認した。
- ④ **いこかバス便ノ山線**について（利用者および地域住民）
利用目的、乗降バス停位置、運行時間、利便性等を確認した。

■ 現地調査の実施

等) 住民懇談会の開催と同時に、名古屋大学による公共交通の現地調査を実施（各バス路線、えがお

これまでに実施したアンケート結果や、これら3回の懇談会の意見、現地調査結果等を集約し、現在策定中の地域公共交通計画に反映させます。

➤ 主な目標値：いこかバス、廃止代替バス、地域間幹線路線バス、えがおの利用者数

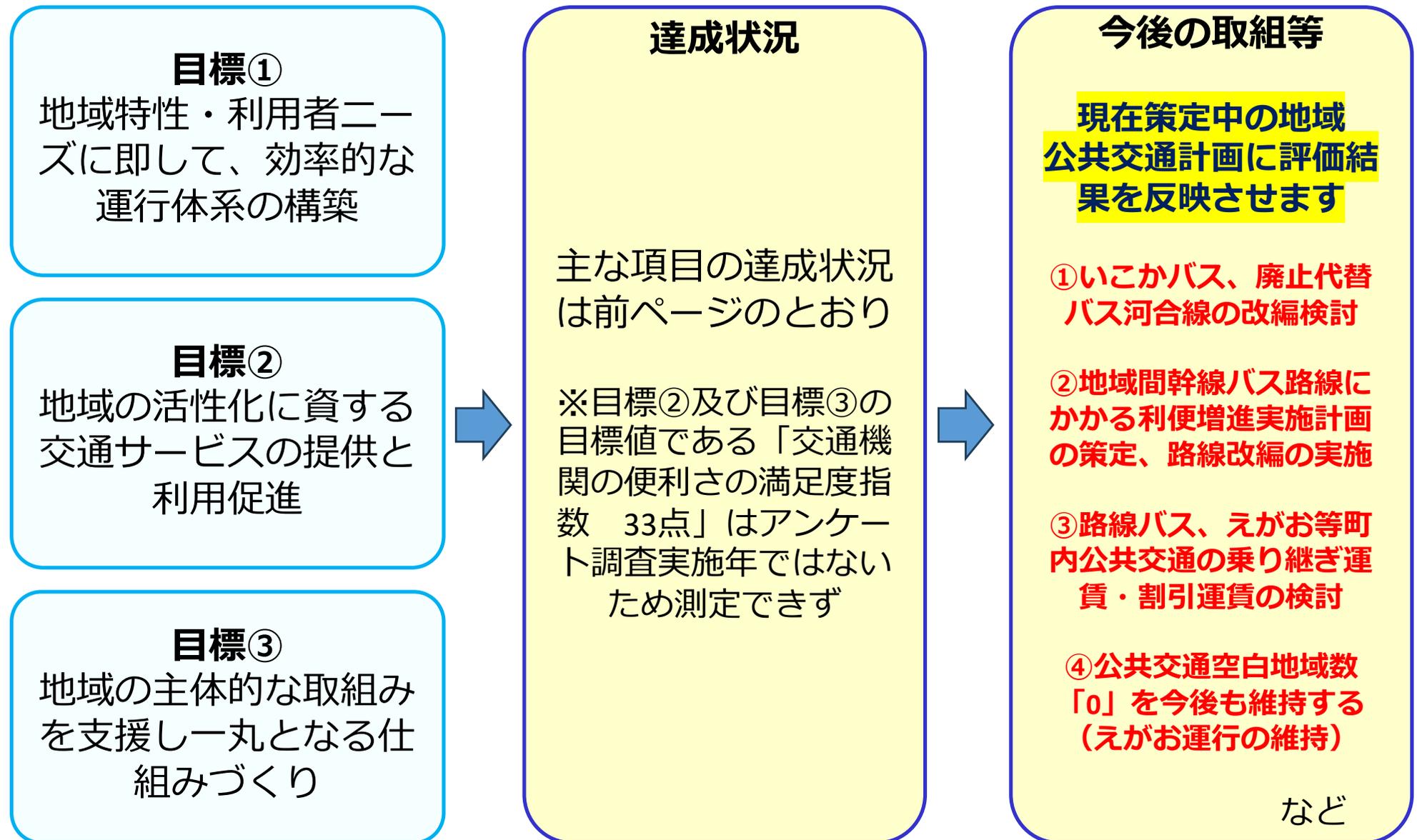
令和6年1月9日、公共交通会議において事業及び公共交通網形成計画の自己評価について協議

令和5年度	目標値 [人]	実績値[人]	達成率 [%]	目標値設定基準
いこかバス海野線 (地域内フィーダー)	1,175	1,618 (前年度：1,413)	137.7	フィーダー系統確保維持 計画で定めた目標数値
いこかバス便ノ山線 (地域内フィーダー)	865	840 (前年度：790)	97.1	〃
廃止代替バス 河合線	1,734	1,584 (前年度：1,717)	91.3	令和4年度比1%増 と設定
路線バス尾鷲長島線 (地域間幹線)	—	30,183 (前年度：28,097)	(前年度比 107.4)	交通体系見直しを行う ため目標値は設定せず
路線バス島勝線 (地域間幹線)	—	16,505 (前年度：20,540)	(前年度比 80.4)	交通体系見直しを行う ため目標値は設定せず
路線バス松阪熊野線 (地域間幹線)	—	10,610 (前年度：15,091)	(前年度比 70.3)	網形成計画において 目標値未設定
おでかけ応援サービス 「えがお」 (地域内フィーダー)	5,231	7,343 (前年度：6,053)	140.4	フィーダー系統確保維持 計画で定めた目標数値

・新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者の外出控えの影響があり、全体的に利用が落ち込んでいたが、若干の改善傾向も見られる。感染症の収束状況を見ながら、新規利用者を増やすためのバス体験乗車会等を実施していきたい。地域間幹線については、通学定期補助制度が周知され、高校生利用者が年々増加しているため、さらに利便性をPRし利用を獲得していきたい。

・おでかけ応援サービス「えがお」については、利便性の高さと、貸切による密を避けた交通手段として認知され、利用が大幅に伸びている。

紀北町地域公共交通網形成計画の評価結果



● おでかけ応援サービス「えがお」について（令和4年度と5年度の実績対比）

ほぼすべての月で運行回数、利用者数、運賃収入ともに大幅に増加。

運行回数及び運賃収入

月	令和4年度					令和5年度				
	運行回数（回）				運賃（円）	運行回数（回）				運賃（円）
	海山	紀伊 長島	合計	日平均		海山	紀伊 長島	合計	日平均	
10	62	353	415	13.4	240,100	56	440	496	16.0	318,100
11	45	356	401	13.4	257,200	60	450	510	17.0	321,600
12	59	386	445	15.9	271,100	72	482	554	19.8	341,800
1	27	301	328	11.7	191,400	54	381	435	15.5	278,800
2	43	318	361	12.9	226,000	50	428	478	17.1	284,600
3	71	364	435	14.0	266,400	73	503	576	18.6	353,300
4	74	393	467	15.6	308,600	66	410	476	15.9	293,800
5	65	357	422	13.6	245,600	68	484	552	17.8	343,100
6	75	390	465	15.5	296,800	56	466	522	17.4	338,200
7	55	433	488	15.7	292,300	53	538	591	19.1	351,900
8	69	395	464	15.0	283,800	46	530	576	19.2	386,100
9	68	387	455	15.2	262,200	64	512	576	19.2	340,700
合計	713	4,433	5,146	14.3	3,141,500	718	5,624	6,342	17.7	3,952,000
					前年比→	100.7%	126.9%	123.2%	123.8%	125.8%

利用者数

利用者のほとんどは、60代～80代で、利用目的は買い物、通院、帰宅で7割以上

月	令和4年度				令和5年度			
	利用者数（人）				利用者数（人）			
	海山	紀伊 長島	合計	日平均	海山	紀伊 長島	合計	日平均
10	75	409	484	15.6	67	478	545	17.6
11	56	424	480	16.0	68	517	585	19.5
12	75	457	532	19.0	85	577	662	23.6
1	35	368	403	14.4	61	442	503	18.0
2	52	380	432	15.4	54	503	557	19.9
3	81	425	506	16.3	89	594	683	22.0
4	90	449	539	18.0	75	483	558	18.6
5	85	407	492	15.9	68	571	639	20.6
6	82	436	518	17.3	59	526	585	19.5
7	71	505	576	18.6	60	652	712	23.0
8	87	470	557	18.0	50	620	670	22.3
9	81	453	534	17.8	69	575	644	21.5
合計	870	5,183	6,053	16.9	805	6,538	7,343	20.5
				前年比→	92.5%	126.1%	121.3%	121.3%

運行回数、利用者の増加理由

- ・ 玄関先から目的地までの運送による利便性の良さ（利用者の満足度高く、リピーターを獲得）
- ・ 利用しやすい運賃（初乗り10分経過後は1分単位で100円加算） ・ 定期的な行政放送番組等のPRによる認知
- ・ 車両台数の増台（2 → 3台）による待ち時間の短縮 ・ 密を避けた移動の提供 などが考えられる

路線名等	今後の方針
いこかバス 海野線 便ノ山線	<p>人口減少の影響と新規利用者が増えないことによってH28頃より減少し、加えてR2より新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに利用者数が大きく減少したが、感染症の落ち着きと共に利用者が回復傾向にある。</p> <p>バスを利用した経験がない高齢者が多くいることから、新規利用者獲得のため行政放送番組や町広報紙、体験乗車会等の実施により、安価なバスの利便性を周知したい。</p> <p>また、利用者が急増している長島地区を中心に巡回運行する「長島巡回線（仮称）」や廃止代替バス河合線のいこかバスへの編入等検討を実施する。</p>
廃止代替バス 河合線	<p>長年見直しをしておらず利用者減少が止まらない。住民懇談会等での意見や現地調査結果を取りまとめ、今後、いこかバスへの編入等見直しを実施する。</p>
地域間幹線 路線バス	<p>バス通学定期補助について、6年目となり学校へのPRや口コミによって利便性が周知され、年々利用者が増加している。一度利用した学生は、多くが翌年度以降も利用している。高校下校時の便について時間帯が早いため、クラブ活動後の学生が利用しやすくなるようバス事業者との調整を図り、新規利用者の取込みを図りたい。</p> <p>高校の入学説明会や学期ごとのチラシ配布に加え、中学3年生や保護者に対しても制度のPRを行っていく。</p> <p>国庫補助基準を満たせない状況になっていることから、次期計画策定に合わせ、引き続き利便増進実施計画の策定に向け、国や三重県、大学の有識者、関係市町、バス運行事業者と連携し、利用者・住民のニーズも踏まえながら利便性向上と運行効率化を両立した再編策を検討し、実施する。</p>
おでかけ応援サービス 「えがお」	<p>高齢化率の高い当町にとって、ドアツードアのオンデマンド運送という利便性の高い新たな交通手段として定着してきた。住民ニーズを調査し、その結果を反映して、より良い交通に育てていく。利用者の少ない海山地区での利用や観光客の利用を増やす工夫も検討していく。「えがお」を基軸として、それを町内公共交通網とうまく組み合わせる「おでかけ応援サービス」を向上していくための施策を検討し、次期計画に反映し、新たな公共交通ネットワークの確立を目指す。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	高校生バス通学定期補助制度にて、バス通学定期券の一部を補助していることを評価します。	令和5年度も事業を実施。令和4年度実績11人から令和5年度は21人に大幅に増加した。	今後も本制度を維持し、公共交通の利用促進につなげていく。
	おでかけ応援サービス「えがお」の増車等の利便性を向上させたことにより運行回数、利用者数、運賃収入を増加できたことを評価します。	利用者アンケートを実施し、利便性向上のための検討を引き続き実施した。令和5年度の利用者も大幅に増加した。	引き続き利用者アンケート等、利用者の意見を調査し、利便性の向上等に繋げていきます。
	住民懇談会を地区別に開催し、地域公共交通全般について聞き取りを行った。併せて公共交通の現地調査を実施したことを評価します。	住民懇談会での意見や現地調査の結果を地域公共交通計画(案)に反映させた。	今後も定期的に住民懇談会やアンケートを実施し、ニーズの把握や利便性の向上に努めていく。
	住民懇談会、現地調査等の結果を踏まえた次期の地域交通計画を策定されることを期待します。	住民懇談会での意見や現地調査の結果を地域公共交通計画(案)に反映させた。	今後も定期的に住民懇談会やアンケートを実施し、ニーズの把握や利便性の向上に努めていく。
	町内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	三重運輸支局のアドバイスをいただきながら、三重県、近隣市町と連携し、利便増進実施計画の策定について検討を実施した。	引き続き利便増進実施計画の策定に向けて、各機関連携のもと路線の改編、利便性の向上についての検討を進めていく。

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	公共交通に対する住民アンケートを実施し、住民ニーズの把握に努めている。	アンケート結果の分析を適切に行い、事業計画等に反映させていく。さらに、計画改定のために、住民懇談会の開催や現地調査等を行い、住民ニーズの把握に努めている。	新計画において、住民・利用者アンケートや住民懇談会などを適宜行うことを位置づける。
	おでかけ応援サービス「えがお」について、利用件数の増加に対応するため増車を行うとともに、運行時間の拡大を行うことにより利用者の利便性の向上を図っている。	「えがお」利用者へのアンケートを随時行っており、ニーズ、改善点等の把握に努めている。	必要な改善については、アンケート等で利用者からいただいた意見を参考に随時行っていく。さらに公共交通ネットワーク全体の見直しに合わせた新たな運行について、次期計画に盛り込む。
	順調に利用が伸びているおでかけ応援サービス「えがお」について、利用者の意見や住民ニーズの把握・分析等により利便性の高いものとなることを期待します。		
	地域間幹線系統や自主運行バス河合線について、利用者数が減少しているため、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有し、次期地域公共交通計画において見直しを期待します。	地域間幹線系統については随時、三重県や近隣市町との情報共有を行っている。自主運行バス河合線については、地域住民・利用者の意見を聞き取り次期公共交通計画に反映できるよう準備を行っている。	地域間幹線系統は国庫補助基準を満たせない状況になっており、抜本的な対策が必要。河合線も利用減少は止まらず、地域間幹線系統と運行が組み合わさっているため見直しが必要。次期計画に抜本的な見直しを盛り込むため検討を進める。
	コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待します。	町の行政放送番組（ケーブルテレビ）において、おでかけ応援サービス「えがお」の紹介などを行い、新型コロナウイルス対策や利用促進に向けたPRを行っている。	随時、町民や利用者に安全性をPRする機会（行政情報番組、広報紙、ホームページ等）を設け、分かりやすく安心できる情報を提供していく。

※前々回：令和4年3月10日

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月9日

協議会名: 紀北町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社 いこかバス海野線	海野鏡神社 ～ 紀北町役場		A	・地域内フィーダー系統確保維持計画で定めた目標数値(年間利用者1,175人)に対し、年間利用者1,618人となり目標を達成できた。昨年度からは205人増加した。 ・路線中にある中の島、西長島地区から町中心部に向かう利用者が増加している。	・引き続き、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を徹底し、安心して利用できる旨の周知をあらゆる媒体を活用して行っていく。 ・町主催イベントなどを中心にPR活動を実施していく。	
三重交通株式会社 いこかバス便ノ山線	木津 ～ 海山総合支所	・広報紙、行政情報番組での公共交通のPRや運転免許証自主返納支援のPR等を実施。 ・町健康増進キャンペーン(ちよい減らし+10)の参加記念品に今年度も回数券を追加しPRを実施。	A	・運行計画どおり運行し、メディアを活用したPR事業を実施した。 ・飛沫防止シートの設置や消毒など感染症対策を徹底し、その周知を行った。 ・住民を集めての体験会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかった。 ・地域公共交通計画策定に向けた住民懇談会を少人数に分けて開催し、利用状況や意見等を聞き取った。	・新規利用者を増やすため、バス体験乗車会を実施する。当地域は車社会のため、安価なバスを利用したことがない方が多く、利用までのハードルが高いことから、一度体験することによる効果を期待している。 ・おでかけ応援サービス「えがお」の実施等により、町内の公共交通の形態が大きく変化していることから、複数ある町営の公共交通の再構築のため、利便増進計画を次年度に策定する予定。	

<p>紀北町 おでかけ応援サービス 「えがお」</p>	<p>紀北町内全域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、行政情報番組、チラシ、ポスター等によりPRを実施。 ・利用者アンケートや直接いただいた意見等からニーズを把握し、より使いやすい交通となるよう改善を検討・実施。 ・運転免許の返納を行った高齢者に対し、特典としてえがお利用券6枚分を配布。 ・町健康増進キャンペーン(ちょい減らし+10)の参加記念品に今年度も回数券を追加しPRを実施。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行計画どおり運行し、メディアを活用したPR事業を実施した。 ・飛沫防止シートの設置や消毒、検温など感染症対策を徹底し、その周知を行った。 ・住民対象の説明会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかった。 ・地域公共交通計画策定に向けた住民懇談会では、「いこかバス」等と「えがお」の往路復路での使い分けなどの事例を紹介した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内フィーダー系統確保維持計画で定めた目標数値(運行回数4,349回、利用者数5,231人)に対し、運行回数6,342回、利用者数7,343人とかなり大きく目標を上回った。 ・本運行開始から3年以上が経過し、町民に広く周知され、着実にリピーターを獲得している。 ・アンケートによると満足度も高く、利便性の高さが認知されている。 ・新型コロナウイルス感染症が拡大した期間においても、密を避けて利用できる安心感、利便性などにより安定して利用された。バスと組み合わせた利用も認知されており、町民が移動手段を選択できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を徹底し、安心して利用できる旨の周知をあらゆる媒体を活用して行っていく。 ・住民説明会の開催や、利用者ニーズの把握に努め、改善を加えながらより利用しやすい交通を目指していく。 ・運転免許証自主返納特典や、他の公共交通との乗り継ぎ利用などについて、さらにPRを行い利用者の増加を目指していく。
-------------------------------------	---------------	---	--	--	---

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月9日

協議会名:	紀北町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本町の地域公共交通は、JR紀勢本線、民営路線バス(地域間幹線系統)、廃止代替バス、コミュニティバス「いこかバス」(地域内フィーダー系統)、おでかけ応援サービス「えがお」(地域内フィーダー系統)からなります。過疎化・高齢化が全国平均より早く進んでおり、令和2年国勢調査結果では高齢化率が46.0%に達しています。特に周辺部では顕著で、高齢者の一人世帯や高齢者のみの世帯が多数存在しています。そのため、公共交通サービスの改善・充実が大きな課題です。</p> <p>コミュニティバス「いこかバス」は、平成23年7月に、公共交通空白地域に居住している、主に車を持たない高齢者等の移動手段を確保し、地域での暮らしを支援することを目的として、運行を開始しました。当該地域から病院やスーパーが集積する中心部までの2路線を運行しています。運行開始後も随時聞き取り調査等を実施し、需要に合わせて停留所の増設やダイヤ改正を行いながら現在に至っています。</p> <p>平成27年7月には紀北町地域公共交通網形成計画を策定し、「地域協働型で生活を支える移動手段の確保とにぎわい、元気なまちの実現に寄与する公共交通の充実」を基本方針として、町の交通施策を進めることとしました。ところが、平成28年12月には町内に唯一あったタクシー会社が廃業したことから、高齢者の日常生活の移動手段の確保や、ラストワンマイルの移動、観光客の移動などが大きな課題となりました。</p> <p>そこで、公共交通空白地域の解消を目的として、令和2年2月より自家用有償運送を活用したドアツードアのデマンド交通システムの実証実験を実施し、そこから明らかになった住民のニーズを反映して、おでかけ応援サービス「えがお」として令和2年8月より本格運行に移りました。運行に際しては、町が最も重視する安全安心のため、運行管理業務をバス運行事業者に委託し、福祉タクシー事業者の運転手派遣をもらうなど、地域の力を結集して業務を行っています。</p> <p>本格運行後は、運行車両を2台から3台に増やし利用者のニーズに対応するとともに、乗車受付時間及び運行終了時間を拡大するなどの改善も行いました。</p> <p>現在は、新しい地域公共交通計画の策定を進めており、懸案の解決に向けた調査結果のとりまとめを行っています。生活にとって欠かせない公共交通については、今後もニーズに応じた改善を実施し、利用者の増加を図るとともに、様々な種類の交通手段を整理し、各地区に合った運行形態へと移行することで、効率的で持続可能なサービス維持を図っていきます。</p>